



## 木曾地域的发展方向

上松町、南木曾町、木曾町、木祖村、王滝村、大桑村

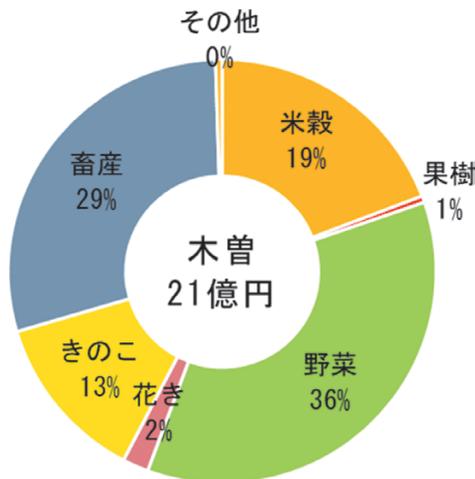
# 未来につながる木曾の豊かな農業・農村と食

### 農業・農村の特徴

木曾川の本支流沿いには、小区画な農地が点在し、水稻、そば、飼料作物などの営農が中心となっています。一方、木曾町開田高原や木祖村西山地域にはほ場整備された優良農地が広がり、夏季の冷涼な気候を生かした「御嶽はくさい®」等の高原野菜や、そばの産地が形成されています。畜産業は古くから「木曾子牛」として全国供給される産地です。

日本遺産木曾路に登録された文化財や、自然豊かな景勝地には大勢の観光客等が訪れ、飲食店では地元根付き守られてきた食文化（木曾牛、そば、すんき、赤かぶ、ほおばまき等）で来訪者をもてなしています。

一方、木曾地域全体で、少子高齢化に伴う産業の担い手不足が進行し、地域機能の維持が重要課題となっています。



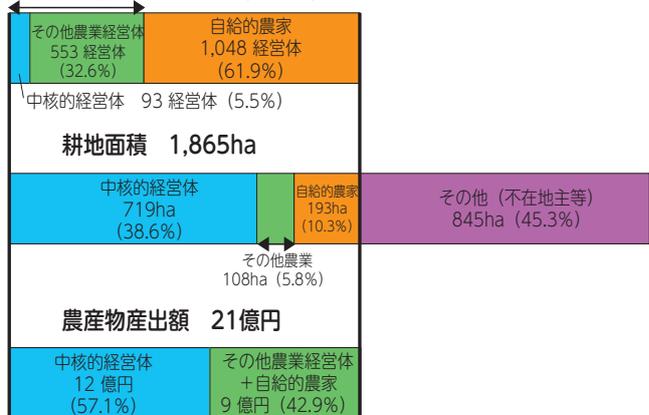
農産物産出額【2020年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、  
「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)

【2020年】(2020農林業センサスから推計)

総農家等 1,694 経営体

農業経営 646 経営体 (38.1%)



### めざす姿

#### I 皆が憧れ、稼げる木曾の農業

- 担い手への農地の利用集積や、新規就農者が円滑に農地の確保を行うための「地域計画」が作成され、農地の有効活用が図られています。
- 「御嶽はくさい®」、「木曾牛」の産地では農業DXが進み、多様な担い手が活躍しています。
- 地域に根差した飼料生産と、新たな技術(スマート農業技術等)を導入した安定的な畜産(和牛子牛出荷)が行われています。

- 木曾を愛する多様な担い手が活躍し、新たな品目の生産が拡大しています。(野菜・花き・えごま等)
- 実需者が求める品質・数量の米、そばが安定供給されています。

## II しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

- DX が進展し、木曾を楽しむ半農半 X、定年帰農者等多様な担い手が活躍し、農村集落との関わり合いが強まっています。
- 自然災害や野生鳥獣被害の少ない安全安心で豊かな農村環境（景観）を維持しています。

## III 魅力あふれる木曾の食

- 木曾地域を訪れる観光客等をおもてなしする飲食店、農産物直売所や加工所と連携した、伝統的食材が安定供給されています。
- 子どもたちが木曾の伝統食材に触れ、農業・農村の大切さを将来につなげる活動が行われています。

# 施策の展開方向

## I 皆が憧れ、稼げる木曾の農業

### 重点取組 1 多様な担い手が支えあう木曾の農業・農村

農業従事者の高齢化が進行しており、経営の継続が困難な農家が増加しています。担い手不足は、農業生産量の減少や遊休荒廃地の増加だけでなく、集落機能の維持にも影響を及ぼしています。「人・農地プラン」の法定化に伴い、市町村が担い手への農地の集約化を明確化した「地域計画」の策定が義務付けされました。

新規就農者は、年間2名程度を確保していますが、木曾地域の実情を考慮しながら、I・Uターン就農や定年帰農者等の多様な担い手の確保を図ります。

#### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
「地域計画」の策定数	—	22
新規就農者数(49歳以下)	3人/年	1人/年

#### 【具体的な施策展開】

- 地域の関係者が一体となって話し合い、めざすべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定・実行を支援
- 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進
- 新規就農里親研修事業等を活用した新規就農者の育成
- 農業入門講座の開催による定年帰農者への支援
- 高校と連携した食の魅力発信と、高校生の就農への意欲を向上



【研修生への個別支援】



## 重点取組 2 木曾ブランドを支える産地づくり（土地利用型作物、園芸品目、畜産の振興）

農業者の高齢化や担い手不足による生産力等を補うため、地域農業のDX、スマート農業等、新技術の積極的な導入により、立地条件を生かした「御嶽はくさい®」「木曾子牛」の木曾ブランドに加え、マーケットニーズに応える産地（良質米、花き・花木類）強化を推進します。

### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
米の1等米比率	78.9%	85%
「御嶽はくさい®」栽培面積	50 ha	45 ha
「木曾子牛」出荷頭数	5.7 頭/戸	6.0 頭/戸
花き・花木類の栽培面積	2.3 ha	2.4 ha

### 【具体的な施策展開】

- 斑点米カメムシにおける病害虫防除組合の農業用ドローンによる適期防除支援と生産者への防除基本技術の徹底及び、収穫適期情報の提供による適期収穫の推進での1等米比率向上
- スマート農業技術等の導入による「御嶽はくさい®」の品質及び生産性の向上
- 畜産クラスター協議会と連携したクラスター事業の推進
- 地域に適応した花き・花木の生産支援



【農業用ドローンによる防除】

## II しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

### 重点取組 3 みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり

野生鳥獣害による農作物被害は、農産物の生産を減少させるだけでなく、農業者の耕作意欲を減退させ、農地の荒廃化に繋がり、農地や農村環境が持つ多面的機能を低下させ、地域の集落機能にも影響を及ぼしています。

農地や農村環境の維持や野生鳥獣害対策等について、農業者だけでなく多様な地域住民が協力して行う地域活動や体制づくりを支援します。

また、農業用水等の地域資源を活用した小水力発電施設の整備により、持続可能な農村づくりを推進します。

**【達成指標】**

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
野生鳥獣による農作物被害額	12.8 百万円	11.8 百万円
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	493 ha	489 ha
農業用水を活用した小水力発電の設備容量	34.4 kw	366 kw

**【具体的な施策展開】**

- 関係者一丸となった捕獲、防除、環境整備等の野生鳥獣被害対策の推進
- 多面的機能支払事業及び中山間直接支払事業の一層の PR による取組拡大と活動支援
- 多面的機能支払事業の事務手続き研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備推進及び技術的支援



【上松町吉野発電所】

### Ⅲ 魅力あふれる木曾の食

#### 重点取組 4 木曾ならではの食による地産地消と食育の推進

木曾の伝統食である木曾牛、伝統野菜やすんき、そば等を「木曾ならではの食」として次代に継承していくため、さらなる地元の理解と地産地消を進めるとともに、観光客や郡外への PR を推進します。

**【達成指標】**

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
伝統食材提供店舗数 (木曾牛、すんき、木曾産そば)	57 店	60 店
伝統野菜の栽培面積 (王滝蕪など 7 品種))	2.1 ha	2.1 ha

**【具体的な施策展開】**

- 「木曾ならではの食材」を扱う店舗と連携した木曾地域の魅力発信
- 担い手不足や形質の保存等生産組織毎の実情に応じた伝統野菜の継承支援による栽培面積の維持
- 小学校・中学校を対象とした食育授業等による地元農畜産物への理解促進と地産地消



【木曾の赤かぶ】



## 松本地域の発展方向

松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村  
山形村、朝日村、筑北村

# 持続可能な農業新時代 ～継承しよう豊かな食と農～

## 農業・農村の特徴

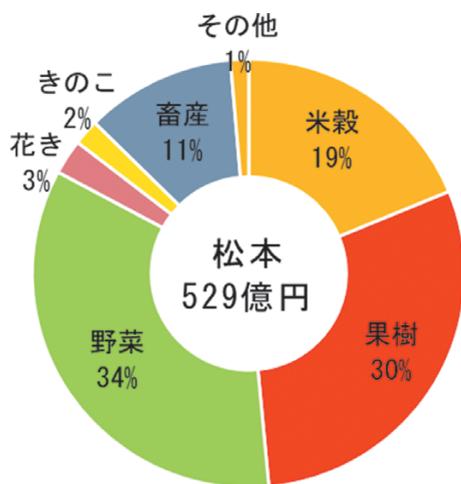
松本地域は、機械化の進んだ土地利用型作物の水稲・麦・大豆、新技術の導入や冷涼な気候を生かした園芸品目の野菜・果樹、付加価値の高い施設園芸の花き・野菜、飼養衛生管理の行き届いた畜産及び、清らかで豊富な湧水に恵まれた水産・わさび等、多種多様な農畜産物が生産される県内屈指の産地です。

地域の担い手は、認定農業者をはじめとする中核的経営体、大規模経営の農業法人のほか、集落営農組織があり、それぞれ高い技術で持続的に産地をけん引しています。

一方で中山間地域では、農業従事者の減少に伴う各種課題が顕著になっています。

現在、農業分野におけるスマート農業技術の開発が急速に進み、土地利用型作物を主体に導入されています。

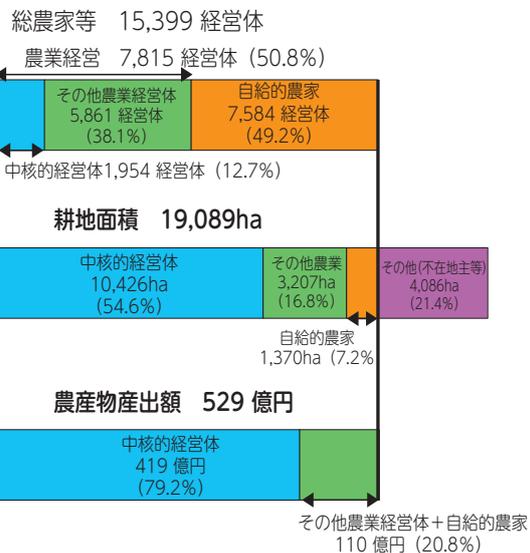
また、園芸施設や畜産にも各種技術が導入され、今後は中山間地での活用にも大きな期待がされるなど農業新時代を迎えています。



農産物産出額【2020年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、  
「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)

【2020年】(2020農林業センサスから推計)



## めざす姿

### I 皆が憧れ、稼げる松本の農業

- 地域の就農希望者の受入体制が整い、毎年多くの新規就農者が確保され、次代を担う若手農業者が育っています。
- 農業をけん引する中核的経営体が農地の利用集積・集約化された基盤を活用し、農業用水の安定供給により、効率的で生産性の高い営農を展開しています。

- 安全安心で環境にやさしい農業を基本として、県オリジナル品種等マーケットニーズに応える高品質な農畜産物の生産や新技術の導入により、信頼される総合供給産地として発展しています。

## Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する松本の農村

- 農業者や地域住民など地域ぐるみの協働により、魅力ある農村の景観や多面的機能が農村コミュニティとともに維持されています。
- 下流への影響度が大きい農業用ため池について、豪雨や地震への耐性が把握・評価され、耐震化工事などの対策が取られているとともに、低水管理による雨水貯留の取組に伴い流域治水機能が向上しています。
- 農地・農業用施設への災害や野生鳥獣による被害が軽減し、安定した生産や豊かな暮らしが確保されています。

## Ⅲ 魅力あふれる松本の食

- SDGs やエシカル消費などの関心が高まり、地元農畜産物の消費が伸びています。
- 松本地域の農畜産物や加工品の販売、飲食店等における地域食材を活用した食事の提供を通じて、豊かな自然や食材の持つ物語が地域の魅力として享受されています。
- 学校や地域における食育活動により、「食と農」の大切さが理解され、松本地域の食文化を愛する心が次世代に継承されています。

## 施策の展開方向

### I 皆が憧れ、稼げる松本の農業

#### 重点取組 1：農業を担う経営体の育成と人材の確保

米をはじめ野菜、果樹及び畜産物など、総合供給産地としての体質強化を図るため、市村や JA 等と連携して、地域農業のけん引役となる「中核的経営体」の確保に向けて、新規就農者の掘り起こし、集落営農組織の育成、経営体の経営力強化を進めます。

#### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
中核的経営体数	1,924 経営体	2,040 経営体
新規就農者数 (49 歳以下)	34 人/年	27 人/年

#### 【具体的な施策展開】

- 新規就農者の確保、栽培技術・経営管理手法の習得のサポート等による育成及び地域への定着を支援
- 「地域計画」の実行や、担い手を対象とした支援策の活用等による中核的経営体の確保・育成と経営の安定・発展を支援



【新規就農者現地指導】



## 重点取組 2：持続的な農畜産物の生産と安定供給

ニーズの高い県オリジナル品種をはじめとする多彩な農畜産物を生産供給するブランド力の高い産地として、引き続きその維持・発展を図ります。

さらに、生産性向上や省力化が期待されるスマート農業等、新しい技術を積極的に導入するとともに、環境にやさしい農業や生産工程の改善等をめざした取組を一層推進します。

### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
りんご高密度植栽培導入面積	116 ha	150 ha
小麦「しろゆたか」の栽培面積	1 ha	250 ha
夏秋いちご「サマーリリカル」の生産量	18 t	27 t
自給飼料作物の栽培面積	478 ha	485 ha

### 【具体的な施策展開】

- 環境負荷低減技術、温暖化に対応した生産技術及びスマート農業技術導入の拡大を支援
- 県育成品種の生産拡大と品質向上を支援
- 樹園地継承による園地と産地の若返りを推進
- すいか、ながいも、わさび等の地域ブランド品目の生産安定と販路拡大を支援
- 家畜の飼養衛生管理の徹底及び危機管理体制の強化
- 信州ブランド魚の安定生産を支援



【りんご高密度植栽培ほ場せ  
ん定指導会】

## 重点取組 3：基盤整備の推進と農地の効率的活用

規模拡大や高収益作物への転換等による一層の経営力強化と効率化に向けて、市村等の関係機関・団体と連携し、生産基盤の整備・汎用化等を計画的に推進するとともに、農地についても更なる利用集積と集約化を進めます。

### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	2 か所	4 か所

### 【具体的な施策展開】

- 営農効率を高めるため、水田の汎用化等の基盤整備を推進
- 水管理の省力化と用水の安定供給のため、長寿命化計画に基づく農業水利施設の更新を推進
- 「地域計画」の実行に向けて、農地中間管理事業等による中核的経営体への農地の利用集積・集約化を促進



【更新した新村堰水路（松本市）】

## II しあわせで豊かな暮らしを実現する松本の農村

### 重点取組 4：安全安心で持続可能な農業・農村の活性化

松本地域の農山村において、豊かな風土や地域の特色を生かした農業を維持・継承するため、担い手の確保・育成、農産物生産や農村コミュニティの活性化等を支援します。

野生鳥獣対策及び風食対策等を市村・JA等と連携して有効な対策を講ずるとともに、気象災害への備えとして、生産者の農業保険制度への加入促進などを支援します。

集中豪雨や地震が頻発して発生する中、松本地域の農山村において、豪雨・地震対策が必要な農業用ため池等施設の耐性評価と防災工事を実施・支援し、災害から暮らしを守る農業・農村の強靱化を図ります。

### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数	27か所	95か所
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	11,622 ha	11,846 ha

### 【具体的な施策展開】

- 対策が必要な防災重点農業用ため池への地震耐性評価と防災工事の実施
- 農業用ため池の低水管理に伴う雨水貯留による流域治水対策の推進
- 地すべり防止施設等の長寿命化の推進
- 用水路等の維持や農産物生産の継続のほか、住民参加による地域活動の活性化を支援
- 野生鳥獣による被害軽減のための防護柵の設置・管理など地域ぐるみの取組を促進
- 風食対策に向けた緑肥作物等の利用促進
- 荒廃農地の発生防止と再生を進め、需要のある作物生産での活用を推進



【風食対策ハゼリソウ栽培試験】



### Ⅲ 魅力あふれる松本の食

#### 重点取組 5：松本地域の食材を生かした地産地消や食育活動の推進

地域の消費者や観光客からニーズの高い新鮮で多彩な野菜・果実・養殖魚などやその加工品について、一層の販売促進や情報発信の強化に取り組むとともに、観光業や食品加工業等との連携によりエシカル消費を推進します。

また、「食や農」への関心を高めるため、継続的な食育活動の取組を進めます。

#### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
学校給食における県産食材の利用割合 (品目ベース)	54%	56%

#### 【具体的な施策展開】

- 農産物直売所等の魅力向上と地域食材の持つ物語の情報を発信
- 農業体験や地域の食文化の伝承など食育活動を行うグループの育成と活動を支援
- 米粉の利用拡大の推進



【食育 味覚の授業】

## 北アルプス地域の発展方向

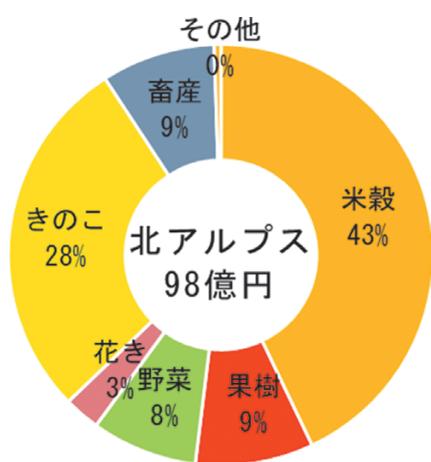
大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村

# 「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村

## 農業・農村の特徴

北アルプス地域は北アルプス山麓に広がる盆地で標高が高く、冷涼な空気と清冽な水、昼夜の気温差が大きい環境下で水稻を中心とした農業経営が営まれています。

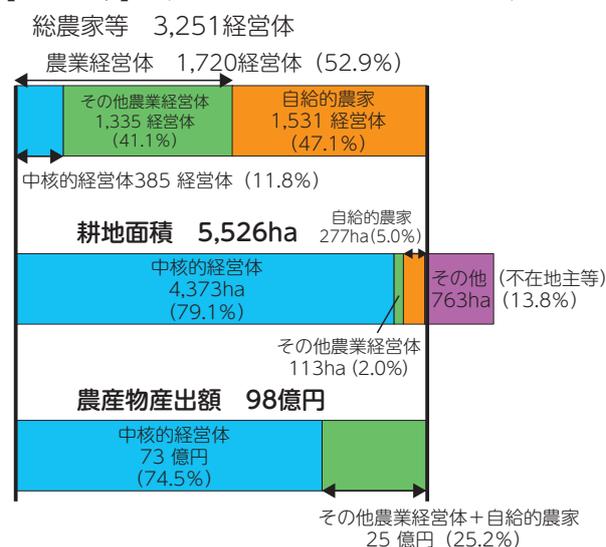
また、りんご、醸造用ぶどう、白ねぎ、アスパラガス、加工業務用野菜等、当地域の立地条件を生かした農畜産物生産が展開されています。



農産物産出額【2020年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)

【2020年】(2020農林業センサスから推計)



## めざす姿

### I 皆が憧れ、稼げる北アルプスの農業

- 地域農業を支える経営管理能力に優れた中核的経営体が確保されています。
- 多様な担い手(移住者・高齢者・女性農業者等)が活躍する場が確保されています。
- 次世代を見据えた農地条件の改善が基盤整備事業により進められ、水稻栽培が省力化され、高収益作物の導入が図られています。
- 土地利用型作物の低コスト・省力化技術、自動給水栓や可変施肥田植機などのスマート農業技術が定着しています。
- 水田の汎用化や畑地化が進み収益性の高い品目(施設いちご、ミニトマト、アスパラガス、玉ねぎ、白ねぎ等)の栽培面積の拡大と安定生産が行われています。
- 環境にやさしい農業に取り組む中で、地域内の堆肥等資源が土づくりに活用されています。



## II しあわせで豊かな暮らしを実現する北アルプスの農村

- 日本型直接支払制度の活用等により農地及び農村の景観が保全されています。
- 移住者や企業などを含めた多様な主体の参画による地域ぐるみでの農村地域の維持管理のための活動が行われています。
- 農業用ため池、水田等を活用した流域治水対策の取組が行われています。
- 地すべり防止施設の適正な維持更新が行われ、農村地域の暮らしが守られています。
- 農業用水を活用した小水力発電施設が導入され、農業水利施設の維持管理費の負担が軽減されるとともに、ゼロカーボンの取組にも貢献しています。

## III 魅力あふれる北アルプスの食

- 地域の優れた特産品が北アルプス山麓ブランドとして認定され、知名度が向上しています。
- SDGs やエシカル消費への関心が高まり、地元産農畜産物の購入が拡大しています。
- 農作業体験等による食育を通じ、次代を担う若者への地域の食文化が継承されています。
- 自然と調和した農業環境が観光資源として活用されています。

### 施策の展開方向

## I 皆が憧れ、稼げる北アルプスの農業

### 重点取組 1 北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

「地域計画」で位置づけられた中核的経営体への農地の利用集積を進めます。

効率的な経営の実践に向けて、水田農業の複合化や経営管理能力の向上を進めます。

また、就農人口が減少する中で、多様な担い手の確保や経営安定のための支援が必要とされており、大規模経営体や集落営農組織を支える労働力の確保を進めます。

#### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
中核的経営体数	423 経営体	500 経営体
新規就農者数 (49歳以下)	4人/年	6人/年

#### 【具体的な施策展開】

- 北アルプス地域農業の将来像の明確化による担い手確保と農地の利用集積の推進、人・農地プランの法定化に伴う「地域計画」の策定を推進
- 北アルプス農業をけん引する中核的経営体の確保・育成を図るため、就農と経営のサポートを一元化した支援体制を構築
- 新規就農者の確保・育成と、支え手として多様な人材の確保



【中核的経営体への支援】

## 重点取組 2 新技術の活用、持続可能な生産、稼ぐ産地を支える基盤整備の促進

水稲の大規模化（基盤整備）、新技術の活用による低コスト・省力化と、大豆、そば等の生産安定・品質向上を進めます。

また、環境負荷を低減した環境にやさしい農業の面的な拡大を進めます。

### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
大規模水稲経営体におけるスマート農業技術導入率	38%	57%
機械収穫適性に優れた大豆品種「すすみのり」の栽培面積	5 ha	100 ha
信州の環境にやさしい農産物認証制度取得面積・認定件数	156.1 ha 44 件	170.0 ha 49 件
稼ぐ産地を支える基盤整備（区画拡大等）の実施面積	27 ha	82 ha

### 【具体的な施策展開】

- 高密度播種育苗・精密田植え技術など新技術を活用した低コスト・省力稲作の推進及びスマート農業技術の活用による生産の効率化
- 環境負荷を低減した有機農業などの環境にやさしい農業の面的拡大を推進
- 中核的経営体の経営安定に向けた基盤整備事業の推進及び導入品目の生産安定等を支援



【スマート農業技術の実証】

## 重点取組 3 マーケットニーズの高い園芸作物の産地づくり

地域の立地条件を生かした県オリジナル品種等、園芸品目の生産振興を進めるとともに、基盤整備ほ場の物理性の改善や、水田への収益性の高い新たな品目の導入により、高品質安定生産をめざした収益性の高い園芸産地づくりを進めます。

### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
高収益作物の導入を可能にする農地の整備面積	3.1 ha	13.0 ha



**【具体的な施策展開】**

- りんご、ぶどう等県オリジナル品種を中心とした新植及び改植、園地更新等の推進及び品質向上に向けた技術支援を実施
- 水田への収益性の高い新たな品目導入のために、必要な機械等の導入に向けた補助事業の活用支援
- 基盤整備ほ場の物理性の改善のため、緑肥作物の作付け、カッブブレーカー等対策の実施



【基盤整備地における物理性改善対策】

**II しあわせで豊かな暮らしを実現する北アルプスの農村**

**重点取組 4 暮らしの場としての農村の振興**

高齢化や少子化による人口減少により、地域の共同活動や多様な人々との交流、野生鳥獣害対策等に取り組めます。

また、農業用水を活用した小水力発電施設の導入により、農業水利施設等の維持管理費の負担軽減やゼロカーボンの取組を進めます。

**【達成指標】**

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	4,122 ha	4,202 ha
農業用水を活用した小水力発電施設の設置箇所数	1 か所	2 か所

**【具体的な施策展開】**

- 多面的機能を維持するため、地域住民を主体に企業との連携による地域ぐるみの共同活動のほか、住民主体で行う野生鳥獣被害防止対策の取組支援
- 農業水利施設の長寿命化対策による農業用水の安定供給と水田営農の支援
- 農村型の地域運営組織（農村 RMO）の組織化による農村コミュニティの維持
- 小水力発電施設の設置による再生可能エネルギーの活用



【景観形成のための共同活動】

**重点取組 5 北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興**

北アルプス山麓の豊かな自然の中で生産された農畜産物を活用した特産品づくりや情報発信、販路の開拓、また、観光業と連携した販売促進による地域の活性化に取り組めます。

### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
北アルプス山麓ブランド認定品目数	123 品	140 品

### 【具体的な施策展開】

- 気象条件や立地条件など北アルプス山麓の特色を生かし生産された農畜産物や加工品を「北アルプス山麓ブランド」として認定
- 北アルプス山麓ブランド認定事業者に対する輸出に向けた商談会等の支援の実施
- 観光業者と連携した販売促進の実施
- 販売箇所の拡大、共同イベントの開催



【北アルプス山麓ブランド商談会】

## Ⅲ 魅力あふれる北アルプスの食

### 重点取組 6 多彩な農村資源を活用した食の地消地産と食育の推進

学校給食等への食材供給を推進するため、地元農畜産物等の持続的・安定的な地消地産の供給体制の構築を進めます。

また、地域の風土・伝統文化等の農村資源を生かした学習旅行等、農業体験を提供できる取組の充実や児童・生徒、一般消費者への食の地産地消をはじめとするエシカル消費に対する関心と理解の醸成に取り組みます。

### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
学校給食における県産食材の利用割合（品目ベース）	47%	48%
食農教育、農業・農村体験交流活動の実施回数	33 回	35 回

### 【具体的な施策展開】

- 学校給食等給食事業者が求める農畜産物の生産組織の育成と供給体制の整備
- 農村生活マイスター等を核とし、栄養教諭等と連携した児童・生徒への食育活動による次世代への食文化の継承
- 農村女性セミナーの開催による若手農業リーダーの育成
- 観光と連携した学習旅行等の受け入れ、収穫体験等の充実



【農村生活マイスター食育活動】



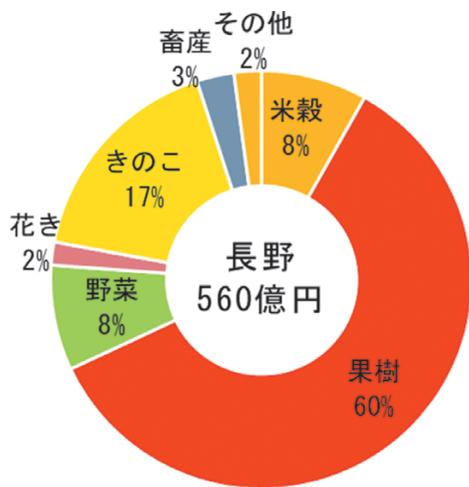
## 長野地域の発展方向

長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町  
高山村・信濃町・飯綱町・小川村

# 人と人がつながり力強く未来へ躍進する長野農業

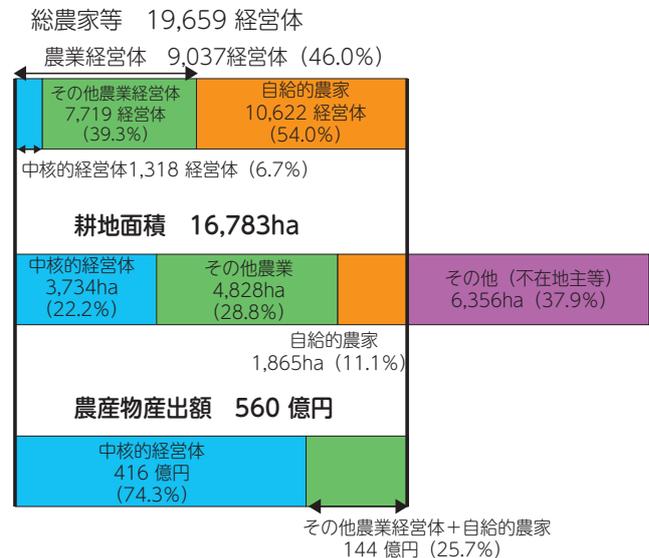
## 農業・農村の特徴

長野地域は、千曲川沿いに開けた平坦な善光寺平と周辺山間部の二つの地域に区分されます。耕地は標高 330 m から 1,100 m に位置し、気象・立地条件を巧みに生かした適地適作による産地化が図られ、全域にわたって多様な農業が展開されています。特に果樹は多品目が栽培されており、りんご、ぶどう、ももの産出額が県内第 1 位となっています。



農産物産出額【2020年産】  
(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、  
「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)

【2020年】(2020農林業センサスから推計)



## めざす姿

### I 皆が憧れ、稼げる長野の農業

- 地域の基幹的作物である果樹を中心に、新規就農者の参入などにより担い手が確保され、皆が活躍しています。
- 農業用水が安定供給され、省力化栽培方式、県オリジナル品種の導入が拡大し、全国トップクラスの果樹産地“ながの”が発展しています。
- 立地条件を生かした野菜、花き、穀物など多様な農畜産物が、環境にやさしい農業や地域の条件に適したスマート農業技術により生産されています。

### II しあわせで豊かな暮らしを実現する長野の農村

- 地域住民と移住者の協働により農村を支える体制が構築され、さらに自治会や社会福祉協議会などとの連携が進み、農村の集落機能や自治機能が維持されています。
- 排水機場の更新などの防災工事が実施され、安心して暮らせる農村が形成されています。

### Ⅲ 魅力あふれる長野の食

- 農産物直売所を中心とした地域内消費が拡大し、長野地域で守り育てた「食」が継承されています。
- 学校、地域、消費者団体と連携し、「食」と「農」をつなぐ食育活動が幅広く展開されています。

## 施策の展開方向

### I 皆が憧れ、稼げる長野の農業

#### 重点取組 1 長野地域の農業を支える多様な担い手の確保・育成

中核的経営体の経営を発展させるとともに、農家子弟の円滑な就農や新規参入者の誘致を積極的に行い、地域農業を支える人材の確保と育成を進めます。

##### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
中核的経営体数	1,479 経営体	1,650 経営体
果樹の新規就農者数	36 人/年	30 人/年

##### 【具体的な施策展開】

- 長野地域の農業をけん引する強く柔軟な経営体を育成
- 新規就農者の安定確保と技術力・経営力の向上を支援
- 雇用労働者の安定確保のための労働環境整備を推進
- 多様な人材による支え手の確保を支援
- 担い手へ農地の利用集積を促進する用排水路や耕作道路を整備



【新規就農者りんご研修会】

#### 重点取組 2 全国トップクラスの果樹産地づくり

新技術・新品種の導入や樹園地継承、農業水利施設の整備とともに、脱炭素化技術の導入等気候変動対策に積極的に取り組み、好調なぶどう産地の更なる発展とりんご・もも産地の再構築を進めます。

##### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
りんご高密度植栽培導入面積（新しい化栽培含む）	139 ha	157 ha
果樹県オリジナル品種等の栽培面積*	1,473 ha	1,550 ha
畑地かんがい施設により用水が確保された農地面積	—	650 ha
果実産出額	335 億円 (2020年度)	354 億円

※対象品種：りんご：「シナノリップ」、「シナノドルチェ」、「シナノピッコロ」、「シナノブッチ」、「秋映」、「シナノスイート」、「シナノゴールド」、「シナノホッペ」、ぶどう：「ナガノパープル」、「シャインマスカット」、「クイーンルージュ®」、もも：「なつっこ」、なし：「サザンスイート」、「南水」、すもも「シナノパール」



**【具体的な施策展開】**

- 適地への省力化栽培技術導入や改植等によるりんご・ももの産地力向上を支援
- 県オリジナル品種等の戦略的導入とハウス・冷蔵庫の整備によるぶどう産地の発展を支援
- 担い手への優良農地の利用集積や樹園地継承を促進
- 脱炭素化技術の導入や異常気象等に強い技術の普及による気候変動対策を推進
- 産地強化につながる輸出拡大
- 果樹栽培を支える畑地かんがい施設を整備



【無核ぶどう 3 品種】



【畑地かんがい施設による散水】

**重点取組 3 長野地域の特色を生かした農畜産物の安定生産**

生産性の向上や省力化が図られる技術を取り入れるとともに、環境にやさしい農業に取り組み、地域の立地条件を生かした多様な農畜産物の持続的な生産を進めます。

**【達成指標】**

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
軽量野菜（ピーマン）の共同選果調製設備の利用率	—	70%
化学合成農薬・化学肥料を原則 50% 以上削減した栽培や有機農業に取り組む面積	306 ha	470 ha
スマート農業技術の導入経営体数	14 経営体	42 経営体

**【具体的な施策展開】**

- 高収益作物の導入による水稻経営体の経営力強化を支援
- ピーマン等軽量野菜の生産拡大と品質向上を支援
- トルコギキョウ等需要に対応した花きの生産安定を支援
- きのこの病害虫対策と経営安定を支援
- 環境にやさしい農業を推進
- 品目や地域の条件に適したスマート農業技術の普及を推進
- 経営基盤の維持、強化による健全で持続可能な畜産経営を推進
- 栽培に不可欠な農業用水を安定供給する農業水利施設を整備



【ピーマン品種検討会】

## II しあわせで豊かな暮らしを実現する長野の農村

### 重点取組 4 多様な人材で支え、皆で取り組む農村づくり

農業者の高齢化や過疎化が著しい中山間地域では、地域と様々な形で関わりがある皆の力で、農村を維持する取組を進めます。

#### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
農村型の地域運営組織（農村 RMO）数	0 組織	1 組織
野生鳥獣による農作物被害額	95.2 百万円	90.0 百万円

#### 【具体的な施策展開】

- 地域住民と農村移住者の協働や関係人口との連携による地域農業への理解を促進
- 農村型地域運営組織（農村 RMO）の構築による農村コミュニティの維持を推進
- 野生鳥獣から農作物を守る地域ぐるみの取組を支援



【鳥獣害対策研修会】

### 重点取組 5 いつまでも安心して暮らせる農村づくり

大規模地震や大雨から農村を守る防災・減災対策を進めます。また、施設管理の省力化と作業時の安全を確保します。

#### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
排水機場の更新等により安全が確保された地域面積	—	570 ha
水門を自動化・遠隔化した農業水利施設の箇所数	16 か所	25 か所

#### 【具体的な施策展開】

- 千曲川沿いの排水機場ポンプ設備の更新・増強を推進
- 防災重点農業用ため池の地震・豪雨耐性評価と防災工事を実施
- 地すべり防止施設の長寿命化計画に基づく対策工事を実施
- ICT を活用した水門の自動化・遠隔化を推進
- 排水機場のしくみと役割を紹介する学習会を実施



【排水機場の学習会】



### Ⅲ 魅力あふれる長野の食

#### 重点取組 6 長野地域で守り育てる食の継承

農産物直売所等の魅力アップを図るとともに、食育活動等を通じた食の継承の取組を進めます。

##### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
売上額1億円を超える農産物直売所の売上高	20.7億円	22億円
学校給食における県産食材の利用割合 (品目ベース)	50%	52%

##### 【具体的な施策展開】

- 農産物直売所の販売力強化及び農産物加工組織の活性化を支援
- 伝統野菜、そば、郷土食など長野地域で守り育てた食の継承を支援
- 「農」と「食」をつなぐ関係機関と連携した食育活動を推進
- 消費者の関心の高い「食」・「安全」・「環境」に配慮した食づくりを推進



【園児への食育セミナー】

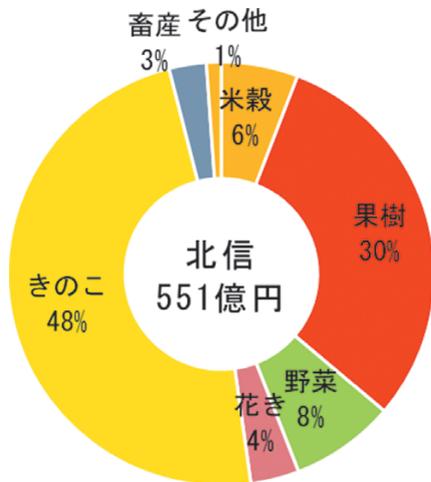
## 北信地域の発展方向

中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村  
野沢温泉村、栄村

# 未来につなげ！ 人と地域が織りなす 北信州の食と農

## 農業・農村の特徴

管内は、全国有数の豪雪地帯であり、えのきたけ等のきのこ、りんご・ぶどう・もも等の果樹、良食味の米、アスパラガス等の野菜、シャクヤク等の花き、肉用牛等の畜産など、気候や起伏に富んだ地形を生かした農業が展開されており、特に近年はぶどうの生産拡大が進んでいます。



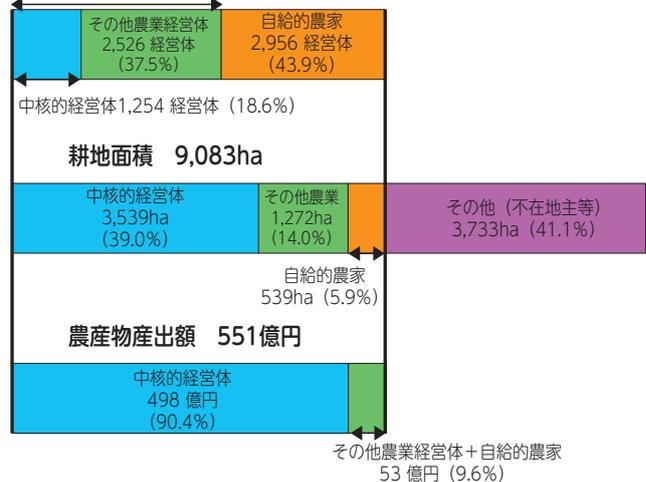
農産物産出額【2020年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、  
「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)

【2020年】(2020農林業センサスから推計)

総農家等 6,736 経営体

農業経営体 3,780 経営体 (56.1%)



## めざす姿

### I 皆が憧れ、稼げる北信の農業

- 適切な農地利用計画に基づいた農地の利用集積と有効利用が図られ、品目や地域条件に適したスマート農業技術の現地実装が進み、環境にやさしい農業が地域ぐるみで展開されています。
- 地域の厳選食材が、県内外に広く認知され、継続して安定的に取引が拡大しています。
- 多様な農業経営に対応した農地・農業用施設の整備が進んでいます。

### II しあわせで豊かな暮らしを実現する北信の農村

- 半農半Xをはじめとする多様な担い手や福祉など他分野との連携により、地域農業が支えられています。
- 豪雨による湛水被害から農村を守る施設の強化や地すべり防止施設の長寿命化が図られています。
- 農業施設の管理を担う土地改良区の体制が強化されています。
- 農業者をはじめ多様な人材が、地域ぐるみで農地・農業用施設の維持に取り組んでいます。
- 棚田、農業用ため池、農業用水などが持つ特性が、観光・学習、エネルギー創出などに活用され地域が活力にあふれています。



### Ⅲ 魅力あふれる北信の食

- 産地と実需者・流通業者との強い信頼関係が構築され、多様なマーケットニーズに対応した流通・販売が行われるとともに、SDGs やエシカル消費など新たな価値観への関心の高まりにより、地産地消の取組が拡大しています。
- 生産者や関係事業者と連携・協力した食育や農業体験を通じ、学校給食や福祉施設などで地域食材が多く活用されています。

## 施策の展開方向

### I 皆が憧れ、稼げる北信の農業

#### 重点取組 1 人材の確保と皆が憧れる経営体の育成

農業者の高齢化や担い手不足による生産力の低下が懸念されます。めざす姿の実現に向け、地域農業をけん引する中核的経営体の育成と、新規就農者、女性農業者、定年帰農者など多様な担い手や雇用労働力の確保を進めます。

##### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
中核的経営体数	1,219 経営体	1,250 経営体
新規就農者数 (49歳以下)	20人/年	31人/年

##### 【具体的な施策展開】

- 農業経営者総合サポート事業等の活用による中核的経営体の経営発展への支援
- 「北信州農業道場」等による新規就農者育成と多様な担い手の確保
- 担い手の経営を支える雇用労働力の確保に向けた支援
- 地域農業を支える多様な担い手の生産設備整備等の支援



【北信州農業道場：先進農家に学ぶ】

#### 重点取組 2 環境にやさしい農業の取組とデジタル技術等の活用

スマート農業等新技術の活用や、農業者の高い技術力と経営力による生産効率の高い営農と、有機農業や減化学合成農薬・減化学肥料による環境にやさしい農業など環境負荷低減の取組を進めます。

##### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
化学合成農薬・化学肥料を原則50%以上削減した栽培や有機農業に取り組む面積	401 ha	610 ha
農業用ドローンによる防除面積	45.2 ha	70 ha

### 【具体的な施策展開】

- 環境負荷を低減した環境にやさしい農業の推進と安全安心な農畜産物生産への支援
- スマート農業等の推進による生産性向上とコスト低減への支援



【農業用ドローンによるリモートセンシング】

## 重点取組 3 マーケットニーズに対応した北信の農畜産物の生産強化

きのこをはじめ、良食味米、高品質で多彩な果樹、アスパラガスとシャクヤクも全国有数の産地として知られています。また、牛肉・豚肉も地域ブランドとなっており、いずれも市場から高い評価を受けています。

今後、更なる産地力強化に向け、マーケットニーズに対応できる産地づくりを進めます。

### 【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
果樹県オリジナル品種等 <sup>*1</sup> の栽培面積	460 ha	620 ha
野菜・花き振興品目 <sup>*2</sup> の栽培面積	598 ha	670 ha

※1：北信地域で対象とする品種は、りんご：「シナノドルチェ」、「シナノリップ」、「秋映」、「シナノスイート」、「シナノゴールド」、ぶどう：「ナガノパープル」、「クイーンルージュ<sup>®</sup>」、「シャインマスカット」、すもも：「シナノパール」

※2：北信地域での振興品目は、野菜：アスパラガス、ズッキーニ、白ねぎ、きゅうり、花き：シャクヤク、トルコギキョウ

### 【具体的な施策展開】

- 需要に応じた米生産を基本に、良食味米や業務用米・酒米の安定生産と収益性の高い米生産を推進
- 果樹の県オリジナル品種等の生産拡大と高位安定生産を推進
- 野菜・花き振興品目の生産を推進
- きのこの栽培環境対策と異物混入の防止及びGAP手法に基づく衛生管理基準の強化
- 家畜の飼養衛生管理及び危機管理体制の強化
- 海外市場も視野に入れた農産物生産と施設整備等への支援



【クイーンルージュ<sup>®</sup>の栽培検討会】

## II しあわせで豊かな暮らしを実現する北信の農村

### 重点取組 4 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

「地域計画」等による農地の利用を進めるとともに、多様な人々が「農」に関わる体制づくりや、農地、水路などを保全し、農業生産活動を継続するための共同活動を支援します。

また、棚田や農業用ため池などを観光や地域学習に活用するなど、地域ならではの資源を生かした様々な取組を進めます。



【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	4,266 ha	4,200 ha

【具体的な施策展開】

- 「地域計画」に基づく適切な農地利用
- 地域ぐるみで取り組む多面的機能の維持
- 美しい棚田や起伏のある地形から生まれる農業用水のもつポテンシャルなど地域資源を生かした農村の活力創出
- 地域特性を生かした「農ある」移住の受け入れ体制の整備支援
- 野生鳥獣被害の実態に応じて総合的に実施する地域ぐるみの被害防止対策を、関係機関連携により支援
- 雪室等地域資源を活用した農産物の高付加価値化の取組を支援



【地域ぐるみの水路保全活動】

重点取組 5 安全安心で持続可能な農業・農村の基盤づくり

収益性の高い果樹産地を支える畑地かんがい施設、良食味米産地での区画整理が進んでいますが、整備後相当年数を経過していることから、施設の長寿命化を進めます。

また、令和元年東日本台風災害や長野県北部地震など大規模な自然災害が発生しており、災害に強い農村づくりを支援します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	4 箇所	9 箇所
湛水被害から農村を守る排水機場のポンプ設備の更新機数	—	4 機

【具体的な施策展開】

- 農産物の安定生産と品質確保に必要な農業用排水施設と畑地かんがい施設の計画的な長寿命化
- 頻発化・激甚化する災害から暮らしを守る農業・農村の強靱化
- 農業用ため池などを活用した流域治水対策への支援
- 人口減少社会に対応した農業施設の更新と施設の維持管理を担う人材の育成
- 「地域計画」に基づいた稼ぐ産地を支える基盤整備の推進
- 中山間地域など地域の実状に応じたきめ細かな基盤整備の推進



【湛水被害から農村を守る木島第一排水機場】

### Ⅲ 魅力あふれる北信の食

#### 重点取組 6 食の地産地消の推進と次代への伝承

農畜産物の更なる利用促進を図るため、農産物直売所や観光業等と連携し、情報発信力を強化します。

また、地域の風土・伝統・食文化等を県内外に発信し、つながり人口の増加を図るほか、食育等により食の伝承を進めるとともに、エシカル消費等による地産地消を推進します。

##### 【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
農産物直売所の売上高	18.3 億円	23 億円

##### 【具体的な施策展開】

- 地域農畜産物の販売拠点となる農産物直売所の情報発信力強化を支援
- 飲食店・宿泊施設等関係事業者と連携した地域食材を提供する機会の拡大
- 郷土食の伝承や地域・産地の魅力を伝える交流活動等を支援
- 学校や地域において、次代を担う子供たちを中心に食育を推進



【高校生による伝統野菜のレシピ開発】